

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00578

研究課題名（和文）満洲語文献に基づいた東アジア言語文化史研究

研究課題名（英文）A Study of East Asian Linguistic and Cultural History Based on Manchu Literature

研究代表者

荒木 典子（Araki, Noriko）

東京都立大学・人文科学研究科・准教授

研究者番号：40596988

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：「異民族の文化の何に価値を見出し、どのように受容したか」という問題意識を持ち、清代の満漢言語文化接触の痕跡を残す文献（満洲語に翻訳された漢語文芸作品、満漢対訳辞書、満漢合璧形式の御神体、満文単体の祭祀資料、档案資料）を研究した。『西廂記』満文訳本の版本の体系が、金聖嘆批評本を中心としたものであること、『満文金瓶梅』において、漢の茶文化をよく理解して訳していたこと、漢語由来語彙の取り入れ方にも段階があったこと、清朝の皇帝が、漢文化から取り入れた陰陽五行思想と曆術思考を主軸とした精神世界を重視していたこと、チベット仏教の儀式が清朝独特のものに変化したことなどが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

文学、思想、宗教の各分野について、満漢両方の資料から検討することで、多面的な考え方を示した。対訳資料であっても、内容が全く一致するとは限らない。どうしても訳せない語彙や概念に、文化理解の限界や、独特な理解の方法があることがわかる。或いは、どちらかの言語の方が、利便性が高い場合にはそちらを使うという運用上の理由が関連する場合もある。多様な文化の接触が不可避な現代において、応用できる方策である。

研究成果の概要（英文）：We conducted research on the traces of linguistic and cultural contacts between the Manchu and Han Chinese during the Qing Dynasty, exploring what aspects of other ethnic cultures were valued and how they were assimilated. Our research focused on documents reflecting Manchu-Han cultural interaction, such as Chinese literary works translated into Manchu, bilingual dictionaries, hybrid religious artifacts, ritual materials, and archival records. We discovered several key insights: the Manchu translation of "Xi xiang ji" was centered around Jin Shengtan's commentary edition; the translation of "Jin ping mei" showed a deep understanding of Han Chinese tea culture; Han-derived vocabulary was incorporated in stages; the Qing emperors emphasized a spiritual world centered around yin-yang and Five Elements philosophy and calendrical thinking from Han culture; and Tibetan Buddhist rituals were transformed into unique practices distinctive to the Qing Dynasty.

研究分野：言語学

キーワード：満文西廂記 満文金瓶梅 清文鑑 大清全書 大廟祝版底 同文類解 チベット仏教 乾隆帝

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

17世紀に清朝を建てた満洲民族は、漢民族の他、モンゴル、チベット、ウイグルなどの民族を統治したが、早い段階から被支配層の文化を価値あるものとみなし、急速にそれらに傾倒して行った。実際には価値あるものとみなされた異民族の文化には様々なものがあり、異民族に対して満洲民族がどのような考えを持っていたかということには未解明の部分が多いが、漢族以外の言語、主に満洲語による文献を読まなければいけないことが問題の解決を困難にしてきた。漢語への学習熱が早くから高まり、母語である満洲語を早々に忘れ去ったことが漢語史研究の立場から明らかになっているが、その一方で満洲語による文献は清末まで存在していたのである。書き言葉としての満洲語は生き延び、民族アイデンティティを支えるものとして重要な記録には使われていたのだ。

2. 研究の目的

本研究の目的は、満洲語の読解が可能で、言語、思想、歴史の各分野を研究する専門家が集結し、17世紀から19世紀にかけて、中国を統治していた清朝を中心とする東アジアの言語、文化、思想を、満洲語文献を活用して立体的に検証することである。上述のように、満洲語は清末まで文献の中には存在した。清朝の歴代皇帝たちは自分たちと同じように北方から興り中原を統治した遼金二朝が滅亡した原因を考究し、満洲民族の基本である騎射と満洲語を忘れるべきではないと考えていたためである。同時に満漢を区別しない一体化の政策を掲げていた。それゆえ彼らが受容した漢文化についても満洲語による記録が存在するのである。そこで本研究では、文学、言語、思想、宗教関連の文献に基づき、「異民族文化の何に価値を見出し、どのように受容したか」を考察する。

3. 研究の方法

荒木(研究代表者)は、漢語から満洲語へ翻訳された文芸作品を調査対象とする。主に行うことは、以下の通りである。1) 翻訳された作品そのものの分析を通して、翻訳現場での分担など、作業の過程を考察する。2) 『満漢西廂記』およびその関連作品の全訳と翻字を含めた総合的な研究。3) 当時、満洲族が手に取ることのできた漢語文芸作品の版本はどのようなものだったのか。4) 翻訳された文芸作品の社会的な位置付けの変化を明らかにする。鋤田(研究分担者)は、満洲語資料を漢語音韻学の観点から分析する。すでに『満文金瓶梅』、『満文三国志』などに関して成果を挙げており、その他の資料(例えば『御製増訂清文鑑』など)の分析に取り掛かり、中国語との関係を明らかにしながらその変化を追う。大野(研究分担者)は、読解が困難であるためにこれまで主要な研究対象とされる機会がなかった満洲語単体で書かれた言語資料を調査対象とする。小松原(研究分担者)は、チベットに関する満洲語の公文書と漢語の編纂史料を調査対象とする。

4. 研究成果

本研究で得られた成果は以下のとおりである。

荒木は、前半は『満漢西廂記』諸版本の体系を全体的に把握することを目的とし、整理を進めた。大英図書館蔵の満文のみの刻本 *Tuwanchiyame dasaha si siyang gi bithe* も、康熙 49 年序刊本の系列にまとめられること、よく見られる合璧本よりも、内容、形式面において金聖嘆批評本に近いことを明らかにした。後半は、『満文金瓶梅』の訳語の問題を考えるために、崇禎本『金瓶梅』との対照研究を行った。特に、茶を淹れる動作の訳し方、「破格」とされる「把」構文の訳し方に注目し、文脈を踏まえ、工夫して訳されていることが明らかになった。また、銭書『西廂時藝』の乾隆 2 年の満文訳『満漢並香集』の研究を進め、次の研究テーマである乾隆年間の満洲語の実状調査につなげた。

鋤田は、辞書と翻訳作品を対象として、満文資料における漢字音表記の通時的变化を研究した。特に、これまで注目されてこなかった『満文水滸伝』2 種の訳語の比較、底本の特定作業が進んだ。『大清全書』を対象とした調査では、康熙年間における漢語由来語彙の定着の様子が明らかになった。

大野は、祭天儀礼に関する満漢合璧、満文単体の各種文献、対訳語彙集に見られる祭祀儀礼関連の語彙を調査した。北京・天壇に収蔵されている満漢合璧の御神体から、清代の為政者による中国伝統思想の継承発展の様相を明らかにした。さらに、朝鮮半島で、天壇を模して造られた皇穹宇と圓丘壇の歴史的考察を行った。『欽定満洲祭神典礼』からは漢文「犠牲」(豚を屠殺する行為の婉曲表現)の満文の解釈に揺れがあることを発見した。満洲族は、漢族に対しては儒教を、モンゴル、チベットに対してはチベット仏教を巧みに利用して統治する一方、自身のアイデンティティを保つためにはシャーマンによる祈禱と形式を守っており、そこに欠かせない存在である「豚」が重要だったと考えられる。朝鮮半島の司訳院で作成された対訳語彙集の調査では、『同文類解』における、ほかの満漢合璧資料には見られない特徴(「皇曆」が見られること、門項の立て方が異なること、シャーマン、巫俗に関する語彙が採録されていること)が明らかになった。

小松原は、チベット政府の摂政、ガワン・ツルティムに関する満文档案を用いて、乾隆帝の対チベット仏教認識と乾隆後期の対チベット政策を分析した。続いて、彼の次に政治を握ったダライラマの兄弟について、乾隆帝がダライラマに送った満蒙蔵三体勅諭から、乾隆帝の認識を分析した。勅諭からは、悪政を行った兄弟をダライラマから引き離そうとするものであるが、ダライラマに対する配慮が十分になされたものであることが読み取れる。風習の伝来については、マンジャ(熬茶) 粥炊きを例に考察した。前者は、皇帝逝去時の事例から、本来の儀式とは変容していることが明らかになった。後者は、実務の面では漢語を駆使して指示していることがわかり、満漢文化が融合した風習であることが明らかになった。また、档案資料の調査から、乾隆帝の旗人、皇親に対する満洲語指導の記録があることがわかり、次の研究テーマ設定につながった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 荒木典子 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 『満文金瓶梅』の「茶を淹れる」動作 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 清代言語接触研究 | 6. 最初と最後の頁 27-43 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 荒木典子 | 4. 巻 519 |
| 2. 論文標題 満文翻訳作品における漢語語彙“茶湯”の解釈 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 人文学報 | 6. 最初と最後の頁 17-25 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 鋤田智彦 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 『御製増訂清文鑑』に見る食文化 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 清代言語接触研究 | 6. 最初と最後の頁 45-74 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 大野広之 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 北京・漢城両京師の祭祀祈祷における「犠牲」についての一考察 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 清代言語接触研究 | 6. 最初と最後の頁 1-26 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小松原ゆり | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 雍和宮の臘八粥と清朝宮廷 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 清代言語接触研究 | 6. 最初と最後の頁 75-92 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小松原ゆり | 4. 巻 519 |
| 2. 論文標題 清代中期の旗人官僚と満州語力ー乾隆帝の満州語指導を中心にー | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 人文学報 | 6. 最初と最後の頁 75-92 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 荒木典子 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 『金瓶梅詞話』における「茶を淹れる動作」 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 雲漢 | 6. 最初と最後の頁 83-93 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 荒木典子 | 4. 巻 19 |
| 2. 論文標題 大英図書館蔵の満文『西廂記』Tuwancihiyame dasaha Si siyang gi bithelについて | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 満族史研究 | 6. 最初と最後の頁 31-45 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 荒木典子 | 4. 巻 518 |
| 2. 論文標題 『満漢並香集』訳注(五) | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 人文学報 | 6. 最初と最後の頁 89-105 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 鋤田智彦 | 4. 巻 47 |
| 2. 論文標題 『満文水滸伝』に見える漢語語彙 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 中国文学研究 | 6. 最初と最後の頁 1-21 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 小松原ゆり | 4. 巻 67 |
| 2. 論文標題 第二次グルカ戦争における清朝軍のネパール入境後進軍ルートについて | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 日本西蔵学会々報 | 6. 最初と最後の頁 1-12 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 荒木典子 | 4. 巻 517-12 |
| 2. 論文標題 『満漢並香集』訳注(四) | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 『人文学報』 | 6. 最初と最後の頁 21-34 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 荒木典子 | 4. 巻 516 |
| 2. 論文標題 『満漢並香集』訳注(三) | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 人文学報 | 6. 最初と最後の頁 87-100 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 鋤田智彦 | 4. 巻 37 |
| 2. 論文標題 『御製増訂清文鑑』における漢字音 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 開篇 | 6. 最初と最後の頁 101-110 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 鋤田智彦 | 4. 巻 29 |
| 2. 論文標題 『満漢西廂記』における漢字音表記 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 水門 | 6. 最初と最後の頁 92-97 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 大野広之 | 4. 巻 516 |
| 2. 論文標題 天壇の御神体に観られる満漢合壁について | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 人文学報 | 6. 最初と最後の頁 43-50 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計25件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

| |
|----------------------------|
| 1. 発表者名 荒木典子 |
| 2. 発表標題 『満文金瓶梅』における“茶湯” |
| 3. 学会等名 第9回清代言語接触研究会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--------------------------|
| 1. 発表者名 荒木典子 |
| 2. 発表標題 「破格」の訳し方 |
| 3. 学会等名 第10回清代言語接触研究会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|---------------------------|
| 1. 発表者名 鋤田智彦 |
| 2. 発表標題 『満文水滸伝』に見える飲食物 |
| 3. 学会等名 第9回清代言語接触研究会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名 鋤田智彦 |
| 2. 発表標題 「大阪大学所蔵『満文西遊記』について」 |
| 3. 学会等名 第10回清代言語接触研究会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 大野広之 |
| 2. 発表標題 北京・漢城両京師の祭祀祈禱における「犠牲」についての一考察 |
| 3. 学会等名 第9回清代言語接触研究会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 大野広之 |
| 2. 発表標題 『同文類解』にみられる祭祀祈禱語彙の 満洲語ハングル対音表記についての一考察 |
| 3. 学会等名 第10回清代言語接触研究会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|-------------------------|
| 1. 発表者名 小松原ゆり |
| 2. 発表標題 雍和宮の臘八粥と清朝宮廷 |
| 3. 学会等名 第9回清代言語接触研究会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 小松原ゆり |
| 2. 発表標題 奏摺における満文・漢文の使い分けについて—乾隆帝の指導を中心に— |
| 3. 学会等名 第10回清代言語接触研究会 |
| 4. 発表年 2023年 |

| |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名 荒木典子 |
| 2. 発表標題 『満文金瓶梅』における茶を淹れる動作を表す語彙 |
| 3. 学会等名 第7回清代言語接触研究会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名 荒木典子 |
| 2. 発表標題 『満文金瓶梅』における茶を淹れる動作を表す語彙 |
| 3. 学会等名 第8回清代言語接触研究会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 大野広之 |
| 2. 発表標題 天壇・社稷祭祀執行における「犠牲」をめぐる若干の考察 満漢単体資料による「犠牲」積義をめぐる |
| 3. 学会等名 第7回清代言語接触研究会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 大野広之 |
| 2. 発表標題 国師堂移転に観られる「犠牲」についての一考察 薩満と巫俗の狭間で |
| 3. 学会等名 第8回清代言語接触研究会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|------------------------------|
| 1. 発表者名 鋤田智彦 |
| 2. 発表標題 『満文水滸伝』に見える漢語由来語彙 |
| 3. 学会等名 第7回清代言語接触研究会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|------------------------------|
| 1. 発表者名 鋤田智彦 |
| 2. 発表標題 大阪大学所蔵『清字水滸伝』について |
| 3. 学会等名 第8回清代言語接触研究会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 小松原ゆり |
| 2. 発表標題 乾隆帝逝去時におけるマンジャ(熬茶)の事例について |
| 3. 学会等名 第7回清代言語接触研究会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--------------------------|
| 1. 発表者名 小松原ゆり |
| 2. 発表標題 旗人官僚の満洲語力と乾隆帝 |
| 3. 学会等名 第8回清代言語接触研究会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 荒木典子 |
| 2. 発表標題 『満文西廂記』Tuwancihiyame dasaha Si siyang gi bithe について |
| 3. 学会等名 満族史研究会第35回大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 荒木典子 |
| 2. 発表標題 『満文西廂記』の繙訳のパリエーションについて |
| 3. 学会等名 第6回清朝言語接触研究会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---------------------------|
| 1. 発表者名 鋤田智彦 |
| 2. 発表標題 『満文水滸伝』における漢字音 |
| 3. 学会等名 第6回清朝言語接触研究会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名 小松原ゆり |
| 2. 発表標題 乾隆帝の対ダライラマ満蒙蔵三体合壁勅諭について |
| 3. 学会等名 第6回清朝言語接触研究会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 荒木典子 |
| 2. 発表標題 Tuwanchiyame dasaha si siyang gi bithe について |
| 3. 学会等名 第5回清代言語接触研究会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|-------------------------------|
| 1. 発表者名 鋤田智彦 |
| 2. 発表標題 満文『大遼国史』に見える漢語由来語彙 |
| 3. 学会等名 第5回清代言語接触研究会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---------------------------|
| 1. 発表者名 鋤田智彦 |
| 2. 発表標題 従満文資料看清代北方音 |
| 3. 学会等名 北京話學術研討会（国際学会） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名 大野広之 |
| 2. 発表標題 天壇の御神体に観られる満漢合璧について |
| 3. 学会等名 第5回清代言語接触研究会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名 小松原ゆり |
| 2. 発表標題 満文寄信档に見るチベット政府の摂政ガワン・ツルティム |
| 3. 学会等名 第5回清代言語接触研究会 |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計1件

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 岩尾 一史、池田 巧編、武内紹人、井内真帆、西田愛、山本明志、池尻陽子、小松原ゆりほか共著 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 臨川書店 | 5. 総ページ数 346 |
| 3. 書名 チベットの歴史と社会 上 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|---|
| <p>研究ブログ https://researchmap.jp/hondavtr250/%E7%A0%94%E7%A9%B6%E3%83%96%E3%83%AD%E3%82%B0</p> |
|---|

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------------------|---|---|----|
| 研究 分 担 者 | 大野 広之 (Ono Hiroyuki) (20837257) | 東京都立大学・人文科学研究科・客員研究員 (22604) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|--|----|
| 研究分担者 | 小松原 ゆり (Komatsubara Yuri) (40782793) | 明治大学・研究・知財戦略機構（駿河台）・研究推進員 (32682) | |
| 研究分担者 | 鋤田 智彦 (Sukita Tomohiko) (60816031) | 岩手大学・人文社会科学部・准教授 (11201) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
| | |